

◆ホタル観察会

北海道に生息するホタルはヘイケボタルです。ホタルの卵はコケの間などに産みつけられ、孵化した幼虫は長さが2～3ミリですが、自力で歩いて水に入ります。ヒラマキミズマイマイやモノアラガイなどを食べて2～3年、5回脱皮して6令幼虫になると上陸し、土やコケの間に室(蛹部屋)をつくりサナギになります。

成虫は10ミリ前後、一部5令幼虫から羽化した7ミリ前後の成虫も見られます。♂♀で異なる発光パターンで交信し、出会います。成虫は水分を摂るだけで何も食べません。活発に活動するのは一週間程度で、7月の下旬が発生のピークです。

古い話を聞くと「室蘭はいたるところにホタルがいた」そうです。かつて白鳥湾と呼ばれた内湾に面して干潟や湿地が広がっていた室蘭の地形を想えば当然のことです。しかし、経済の高度成長の時代を経て、私達はホタルの生息できる環境を失ってきました。石川町の一部を除いて、室蘭はホタルの「絶滅地域」です。

活動の当初から、「ホタルの復活」は大きな目標でした。1999年に白老で行われた北海道ホタルの会のシンポジウム「ホタル自然復帰研究交流大会」に参加するなどして知見を深め、タネ親の導入元について検討しました。「室蘭の自然再生」という目的から、安易な「購入」を退け、近隣からの導入を目指しました。虎杖浜地区の野生のヘイケボタルをタネ親として2000年以来飼育ケースでの累代飼育を行い、増殖をはかって放流できる環境の実現に備えました。

ビオトープの造成が可能となり、2006年と2007年に合計1280匹の幼虫をビオトープに放流しました。その後は、登別市内からも野生のヘイケボタルを導入して定着・繁殖の推移を観察してきました。イタンキは多くの人が入り出す場所であり、ホタルは逃げることを知らない虫です。そっと見守る心で大切にしたいものです。

ビオトープ・イタンキでは毎年ホタルの観察会を行っています。期間は7月20日～31日までの12日間限定です。ホタルの観察ですから勿論「夜」ですが、8時に、海水浴場の角の大きな看板の所に集合です。当日時間までに集まった人数で出発しますが、「調査」の意味もあって、なんと雨天決行なのでNPOの担当者だけ＝お客様ゼロなんてこともあります。大体1

0人ほどの少人数のことが多いのですが、小学生の子ども達も交えて1時間ほどの「夜の散歩」です。左手水平線近くに地球岬灯台の光が海霧を照らすのが見える日もあり、右手に折れ潮騒を背に砂地を踏んで土手を上り切通しを少し下ると空気の匂いが変わってアマガエルの大合唱が迎えてくれます。夜目に慣れるとライトが無くても色んなものが見えてきます。白っぽい花、山の稜線、星の見えない曇りの時の方が、足元が明るいのは意外です。奥の方に進むと、水辺の草の間に小さな光の点滅が・・「いた〜」。1匹、2匹。時には点滅しながら飛ぶ姿も。池の周囲をめぐって10匹ほど数える日が多いようです。一通り数えると、草の間で大きな鳴き声の主のアマガエルの姿を探したり、水底のドジョウの姿を照らし出したり。真夏の宵闇の散歩はカップルでなくてもなかなか楽しいものです。今年はあなたも参加しませんか。申し込み連絡先 090-8637-8725 (大西) 又はお近くの会員まで。



発光するヘイケボタル